



つながろう

CO-OP アクション情報

2012年5月30日

第 17 号

菜の花に願いをこめて

塩害を乗り越え、「なたねプロジェクト」商品化に期待



©山田省蔵

東京ドーム約2個分の菜の花畑が広がる。周辺は、菜の花の甘い香りに満ちていた。

津波の被害を大きく受けた宮城県岩沼市玉浦地区。現在も、沿岸部付近の農地は浸水し、津波の爪あとがはっきりと残っています。そんな玉浦地区の農地一面に菜の花が咲き誇りました。

一面の菜の花畑に歓声をあげ、また、協力団体から振る舞われた豚汁や天ぷら、おにぎりなどに舌鼓を打っていました。

みやぎ生協・食のみやぎ復興ネットワーク事務局の藤田孝さんは、「花が咲くかと心配していましたが、無事開花し、ほっとしました。商品化したら、全国の生協の宅配でも取り扱ってもらえないか呼び掛けていく予定です」と話していました。

「食のみやぎ復興ネットワーク」（みやぎ生協他 184 団体参加・2012 年 5 月 20 日現在）が「なたねプロジェクト」※として菜種をまいたのが 11 年 10 月 10 日。その 7 か月後の 12 年 5 月 10 日、一面に咲いた菜の花畑で「菜の花を見る会」が開催されました。

当日は、プロジェクトを共同で行なっている 10 団体他、みやぎ生協組合員、そして、玉浦地区の住民など約 150 人が集まりました。参加者は、

※被災した農地に、塩害に強い「なたね」を植え、収穫物（なたね油、農地に置いた巣箱からとれたはちみつ等）の販売収入などで被災した生産者を経済的に支え、また、農地の耕作放棄を防止する取り組み。津波の被害で荒廃した農地が広がる地域に「菜の花の咲く風景」を作り、地域を励ますことも目的の一つ。



津波の爪あとが残る、岩沼市の沿岸部。周囲には、がれきの山や基礎のみが残る家が目立つ。



今後の生産・供給に関して、お互いの思いを語り合う生産者の内山さん(左)とコープふくしまの根本さん。

福島豚生産者からの メッセージ ~支え合い、共に進む

コープふくしまでは、2012年3月から、^{はやま こうげんとん}麓山高原豚※の取り扱いをスタートしました。東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害を乗り越えながら、前へ前へと歩みを進める生産者と、共に供給に取り組む方々の様子取材しました。
(取材協力:JA全農福島)

「いきいきコープ復興応援デー」で展開

コープふくしまが、毎月11日に開催するいきいきコープ復興応援デー。この企画のひとつとして、麓山高原豚の生産者が顔写真入りでチラシや店頭POP広告で取り上げられています。その効果もあり、麓山高原豚は組合員の支持を集め、コープふくしまの豚肉供給高の3割を占めるほどになっています。コープふくしま店舗部畜産・惣菜SVの近内昌隆さんは、「麓山高原豚は、おいしいのはもちろんですが、放射線の検査をクリアしているため、安心して



内山さんの豚舎。

食べられるということも人気を後押ししています」と語ります。

震災で、生産を断念する農家も

東日本大震災の被害で、もともと14戸あった麓山高原豚の生産農家は12戸に減ってしまいました。1軒は、津波で流され、もう1軒は東京電力福島第一原子力発電所から11kmの場所にあり、避難地域に指定されたため、養豚を断念せざるをえなくなりました。

福島県南部にある天栄村で麓山高原

豚の生産を20年続けている内山福雄さんは、「震災で被災し、長年続けてきた養豚ができなくなった仲間たちの姿を見て、かける言葉が見つかりませんでした」と振り返ります。

自信を持って、おいしい食べ物を作り続ける

内山さんは福島の生産者の気持ちを代表して語ってくれました。

「どんなに努力して、おいしいものを作っても、福島県産というだけで、なかなか食べてもらえません。放射線量の検出がなくても、です。私たちの一番の励みは、おいしいと食べてもらえることです。それが無くなった今、福島の生産者は、やる気を失いつつあります。それでも、私たちにできることは、安全管理をしながら、自信を持っておいしい食品を作り続けることです。その思いは、消費者の方にも、必ず伝わると信じています」

コープふくしま店舗部地産地消推進担当の根本茂さんは「農業の復活がなければ、福島の復興はないと思っています。コープふくしまに今できることは、事業を通じた企画などで、生産者を支え、励ましていくことです。消費者、生産者が互いに支え合うという視点を持ち続け、まずは、私たち自身が生産者の思いを感じながら商品を利用し、全国へ福島の元気を発信したい」と話していました。



広いスペースをとって、麓山高原豚をアピール。

※麓山高原豚は、福島県内にある12戸の飼育農家で限定生産される、JA全農福島県本部が認定するブランド豚。認定されるには、指定された種豚であることと、仕上げの60日間に専用飼料を与えることが必要。現在、福島県内の指定された店舗や料理店でのみ取り扱われている。

茨城で、子ども保養プロジェクト実施

4月21～22日、「福島の子ども保養プロジェクトin茨城」が実施され、福島県のサッカーチームの子どもたちが茨城県に招待されました。



試合の行方を真剣な表情で見つめる子どもたち。

「福島の子ども保養プロジェクト in 茨城」は、「2012 国際協同組合年」を迎え事業連携する茨城県生協連、JA 茨城県中央会、いばらきコープ、パルシステム茨城、茨城県畜連の合同企画として実施されました。これは、春、夏、秋の全3回に及ぶ企画として予定されており、今回の第1回は、福島県のサッカーチーム3チーム、計74人が招かれました。

東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて、福島県のサッカーチームは、練習回数を減らして屋内で行なっているところが多くなっています。子どもたちはJ2所属のプロサッカーチーム、水戸ホーリーホックの選手・コーチによるサッカー教室に参加。その後「協同組合サンクスマッチ」の名称で協賛試合として開催されたザスパ草津戦を楽しみました。

茨城県生協連専務理事の古山均さんは、「震災で茨城県も被災し、全国の生協の皆さまから、募金や支援物資を送っていただいたこと、心より感謝いたします。おかげさまで生協の事業も継続させる事ができ、県内の被災者も大変助かりました。その恩返しも含め、今後もさまざまな支援活動を行なっていきます」と話していました。

「安心して住める『福島』を取り戻すための活動」への協力を呼び掛けます



東日本大震災復興支援
つながろう
CO-OP アクション

これまで、日本生協連は、被災地を支える活動のひとつとして「つながろう CO・OP アクションくらし応援募金」等への協力を各会員生協に呼び掛けてきました。

今回新たに、福島県生協連からの支援要請に応え、「安心して住める『福島』を取り戻すための活動」として下記の支援を呼び掛けます（お問い合わせ先：日本生協連組合員活動部・久保、木戸 03-5778-8124、kumikatsu@jccu.coop）

●呼び掛けの内容：

(1) 「安心して住める『福島』を取り戻すための募金」（あんしん福島募金）

- ① 募金対象：食品の放射線測定器 30 台、内部被ばくの検査装置 2 台（予定）
- ② 募金目標：1 億 3,600 万円
- ③ 募集期間：2012 年 5 月 25 日～2013 年 3 月 31 日

(2) 「安心して住める『福島』を取り戻すための署名」

署名を全国の生協に呼び掛け、日本生協連にて集約します。集約期間は、9 月末に 1 次締め切り、12 月末に最終締め切りです。10 月初旬と年明けに政府要請の場を設け、提出します。

コープふくしま 仮設住宅のお花見にシジミ汁を

4月28日、福島市の松川第二仮設住宅（飯舘村より避難）にて、コープふくしまの組合員がシジミ汁を振る舞いました。



「大きな声で笑ってリフレッシュしました」

コープふくしまでは、取引先の（有）小川水産（愛知県）より提供いただいたシジミでシジミ汁を作り、仮設住宅に住んでいる方に振る舞いました。組合員手作りの温かいシジミ汁に、「やっぱりシジミ汁はうめいない」「ありがとう」と何杯もおかわりをされていました。

この日は、駐車場に植えられていた

1本の桜がちょうど満開を迎えたところ。去年は、いつ、どんな花が咲いたかも分からないほど慌ただしい1年だったといいます。仮設住宅にお住まいの方は、

「お花見をするのも、こうしてみんなが一堂に集って交流を深めるのも、この仮設住宅に入居して初めてです。大きな声で笑ったのも久しぶりです」と

話していました。

コープふくしま生活文化グループの酒井孝子さんは、

「本当に皆さまに喜んでいただき、こちらもうれしい気持ちでいっぱいです。こうしてみんなで笑い合える環境をもっとたくさんつくっていったら」と今後について述べていました。

顔が見えるつながりで支援を続けたい

コープこうべとみやぎ生協による「広げよう みやぎ生協支援の輪 へちま絆プロジェクト」が始まりました。



悪天候にも関わらず、楽しそうに種植えをする参加者たち。

コープこうべでは、“顔が見えるつながり”のため、みやぎ生協との絵手紙交換などを行なっています。

今回、こうしたプロジェクトの一環として、「へちま絆プロジェクト」が始動しました。このプロジェクトには、コープこうべ大阪北地区・第1地区・第2地区活動サポートセンターと、みやぎ生協県北ボランティ

アセンター（気仙沼市・南三陸町）が取り組んでいます。

5月6日には、面瀬中学校仮設住宅（宮城県気仙沼市）でへちまの種植えが行なわれました。このへちまの種は、コープこうべから届いたものです。

1月17日に、コープこうべがみやぎ生協の理事・役職員を神戸に招き、開催した「1.17 きずな交流会」。ここ

で意見交換をした際、男性も参加しやすい園芸で、さまざまな使用用途が考えられるへちまを育ててはどうか、という意見が出て、このプロジェクトがスタートしました。

種植え当日は雷雨でしたが、28人の参加者からは、「楽しみで早めに来ました」などの声も聞かれ、和やかな雰囲気で作業が進められていました。

ならコープ 毎月10日 「復興支援バザー」開催

ディアーズコープいこま店では、今年4月から毎月10日(10～12時)に店頭での「東日本復興支援バザー」に取り組んでいます。



多くの方がバザーを利用。後ろには、被災地のパネル展示も。

ならコープ・ディアーズコープいこま店の「東日本大震災支援バザー」で売られているものは、南三陸戸倉町(宮城県)で作られている雑貨(ティッシュカバー、エプロン、ブックカバー、ブローチ、巾着など)やマドレーヌ。販売しているのは、いこま店のボランティアグループのメンバーです。

このバザーは、2月25日～3月

2日に遠野災害ボランティアに行った店長の土阪元宏さんが、奈良へ帰ってからもなんとか継続して現地の復興を応援したい、という熱意から始めたものです。バザーの収益は、ならコープ職員が商品を作られた方に直接届けています。

また、上記バザーの他、ならコープでは、他生協と合同でバスボランティアを5月3～6日に行なってお

り、6月にも22～25日の日程で運行する予定です。さらに、夏には、「福島の子ども保養プロジェクト」を行なう予定であり、5月に福島に視察に行くなど、継続した支援活動を行なっています。

日本生協連 復興支援 ボランティア隊結成

4月28日～5月1日に、日本生協連の復興支援ボランティア「笑顔とどけ隊」※が岩手県宮古市田老地区へのバスボランティアを行ないました。



地元の方と協力して2mの大木を運んだ。

岩手県宮古市田老地区へのバスボランティアに参加したのは、日本生協連職員とその家族、31人です。田老町漁協女性部との植林や、炊き出し、津波で施設をさらわれた「沼の浜キャンプ場」の清掃、ふれあいサロンや、復興支援団体「かけあしの会」のあわびの貝殻アクセサリー製作の手伝いを行ないました。また、

いわて生協マリンコープDORA店長の菅原則夫さん、理事の香木みき子さん、田老町漁協業務部長の前田宏紀さんから、震災当初のことや現在抱える問題などを話していただく機会を設け、現地の状況の把握と、今後継続し

てボランティアを行なうためには何が必要かを全体で共有しました。

今後も、継続して活動を行なっていく予定です。

※「笑顔とどけ隊」は、日本生協連職員の有志が立ち上げたボランティア組織で、5月30日現在、会員数85人。今後、継続的な復興支援活動を展開していく予定。

CO・OP 共済 竜巻被害 区域に訪問活動実施

コープ共済連といばらきコープは、5月6日に起きた竜巻で被害を受けたCO・OP共済加入者への訪問活動を実施しました。



説明を行なう根本さん、市村さん。

茨城県つくば市北部の北条地区を中心に発生し、大きな被害をもたらした竜巻。コープ共済連といばらきコープは、5月15日から4日間にわたり、計100人の共済契約者のご自宅を訪問し、被害によっては共済金が支払われることを伝えました。

取材を行なった16日は2日目。竜巻が通過したラインに沿うような

訪問となり、2人1組の2チームで手分けをして活動が行なわれました。

最初に訪問したご自宅は、屋根の瓦が半分近く落ちていました。コープ共済連事務本部共済金統括部根本研朗さんと、いばらきコープ共済推進支援担当課長の市村淳一さんは、家の被害はもちろん、まずは身体が無事であったかを尋ねながら、共済金の支払いにつ

いて丁寧に説明していました。契約者の方は「共済金がもらえる可能性があるとは、気付いていなかったのでありがたい」と話していました。

根本さんは、「竜巻の被害を担当したことがなく、とまどいもありますが、それは被災された方も同じ。お一人おひとりお話を聞きながら、慎重に手続きを進めていきたい」と話していました。

赤武酒造からのメッセージ



赤武酒造（株）古館秀峰社長。

ご支援いただきました皆様へ

東日本大震災より1年が過ぎ昨今の今頃を思い出しています。酒造りを諦め次の生き方を考えていた時期でした。思うことは、無くなった住まい、思い出の品、家族の笑顔…。

笑うことを忘れていました。笑いか

いわて生協やコープ東北サンネットとの取り引きがある赤武酒造より、2012年5月7日、メッセージが届きました。

たを忘れていました。酒造りのことを考えるどころか、後の人生どの様に生きていくかを考えていました。

皆さんの応援でもう一度「浜娘」を醸す気持ちになれたのはそれから半月後の事でした。決断してから、声を出す勇気が生まれ、今まで思っても声に出すことの出来ない言葉が自然と出はじめました。

弱い自分と、もう一度、生きぬきたい自分が体の中で戦っている。弱気になるな…。強くなれ…。変わらなけれ

ば生きていけない…。何度も何度も心の中で叫びました。

2012年5月7日、販売数は目標とした大槌町の震災前の人口15,994人（本）に少しずつ近づいてきています。

私たちの進む道は遠く、まだまだ険しい道が続くでしょう。もう一度、強い気持ちを持ち戦い続けます。自分自身に。進む道を決めたのだから。

これまでのご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

（届いたメッセージを一部、省略し、掲載しています）

ポータルサイト コープみえ「メッセージカードをカレンダーにしてお届けします」

コープみえでは、3月19日～4月13日、組合員・職員に呼び掛け、福島に贈る“応援メッセージカード”を集める取り組みを行ないました。集まったのは、色とりどりの手作りカード238枚です。4月27日には、卓上カレンダーに仕立てるため、カレンダーに使用する14枚のカードを選ぶ選考会が行なわれました。その他のカードはすべてパネルに貼って、コープふくしまに贈ります。6月下旬に、福島で贈呈式を行なう予定です。



カレンダー用のイラスト選考の様子。

ポータルサイト 八戸東洋(株)「ビデオレターに感激しました」

「CO・OPたまごスープ」などのフリーズドライスープを製造している八戸東洋(株)のある青森県八戸市では、震災直後は9,000人以上の避難者が出て、69カ所の避難所が設置されました。八戸東洋(株)はライフラインの復旧に時間がかかりましたが、高台に位置しているため設備の被害はありませんでした。

「復旧に取り組む中で、昨年2月に工場見学に来ていただいた組合員さんからビデオレターをいただき、温かい言葉に感激しました。また、復興応援の取り組みを全国の生協さんに実施いただき、フル生産となっています。これからも、従業員一丸となって製造してまいります」との決意が語られました。



八戸東洋(株)の皆さん。

「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に入り、見たもの、感じたものをお伝えしていきます。

震災から既に1年と数カ月。何度も現地取材に行き、いろいろお話を伺ってまいりました。「生協のおかげで本当に助かってるわ」「人の温かさを感じるが増えたよ」などの声が多い一方で、「記事にはしづらいなあ」と思わず自主規制してしまう微妙なお話も多いのも事実です。読んでいてほっとできる記事がメインの『つながろう CO・OP アクション情報』ではございますが、1年以上たっていることですし、あえてほっとできないお話も書かせていただこうか、ということになりました。

たとえば、こんなお話。先日、とある生協のお店で「もう頑張るの疲れたよう」とベソをかいている男の子に、ママが「辛い時は泣いていいんだよ」と手をつないであげていました(ちなみにご本人は「抱っこ希望」でしたが)。これ自体はいい話なんですけど、私たちがほとんど無意識に言う「頑張ろう」が、小さな子にまで負担を強いているのかも、とあらためて考えてしまいました。だから、「つながろう」ってホントにいい言葉だなとしみじみ思います。とか、そんな感じでいろいろつづってまいりたいと思います。試行錯誤しながらのスタートでございます。よろしくお願ひ申し上げます。



宮城県某所。日だまりでのんびり過ごす。
※写真と本文は関係ありません。

復興関連情報 予定一覧 (各生協の復興支援に関する予定を action@coop-book.jp まで、ぜひお寄せください)

【岩手県】

- いわて生協 ●マリンコープ DORA「復興商店」スタート (6/1 ~、10:00 ~ 17:00)
 ●バスボランティア (6/8、15、21、23、24、29、運行2日前締め切り、各定員40人)
 ●木管五重奏&歌のコンサート (6/10、マリンコープ DORA、無料)
 ●移動販売車購入支援募金 (レジ募金、OCR募金) スタート (6 ~ 8月)

【宮城県】

- みやぎ生協 ●「みやぎの子どもたち生きる力(思い出づくり)支援」プロジェクト (小学生: 8/4 ~ 6、8/7 ~ 9、8/19 ~ 21、8/21 ~ 23) (中学生: 7/23 ~ 25、8/19 ~ 21)

【兵庫県】

- コープこうべ ●くらしの助け合いの会(むつみ会)の公開講座「いざ」というとき、支え合える地域に(6/14、農中商工会議所、講師: みやぎ生協福祉活動事務局・千田睦子さん)
 ●みやぎ生協「絆フェア」(6月下旬、野菜の供給)
 ●福島の子ども保養プロジェクト (7/29 ~ 8/2)

支援募集情報

○いわて生協:

- 被災地ツアー(観光を含んでも可能)、被災地ボランティアツアーの企画・実施
 - 被災地のお母さんたちや福祉作業所などの復興応援商品の販売協力(宅配以外のイベント等での取り扱い協力など)
 - 被災メーカーの商品や復興応援ギフトなどの店舗・宅配での販売協力
- 連絡先は、いわて生協組織本部・小野寺 真さん(019-603-8299 月~土 9:00 ~ 18:00)まで。

○みやぎ生協:

新着

- 「みやぎの子どもたち生きる力(思い出づくり)支援」プロジェクト実施のため、募金をお願いいたします。被災し、心理的ストレスを受けた子どもたちが「生きる力」をつけるため、さまざまな方のお話を聞いたり、体験したりするツアーを組み、子どもたちの未来に夢と希望を与えます。実施には3,000万円の費用が必要です。ぜひ、できる範囲で募金にご協力ください。問い合わせは、みやぎ生協専務理事スタッフ・五十嵐桂樹さん(022-771-1590)まで。
- ふれあい喫茶で使用する、お菓子(各地の名産品など)を募集しています。連絡先は、みやぎ生協ボランティアセンター(022-218-5331)まで。
- 食のみやぎ復興ネットワーク:「宮城県漁協志津川支所」に漁船・船外機・フォークリフト・わかめ収穫用コンテナを、「JA いしのまき」に海水淡水化装置を贈るため、上記物品、あるいは、支援金を募集。連絡先は、みやぎ生協 藤田 孝さん(022-772-6141)まで。
- 福島県生協連:「福島の子ども保養プロジェクト」の①スタッフ、②大型連休の保養受け入れ先募集。①は、1カ月単位で毎週末参加可能な方を。②のご提案は、企画(日程、募集対象者、募集人数、スケジュール、参加者負担額等)を明確にした上で、ご連絡ください。連絡先は、福島県生協連 根本 喜代江さん(024-522-5334)まで。(保養の企画、運営、費用は、主催者にご負担いただきます。ご了承ください。また、夏休みの保養企画のご提案は、5月31日までにご連絡ください。)
- ※その他:首相官邸HPにて「被災地の今」を伝える「私の復興便り」コーナー(<http://www.kantei.go.jp/fukkou/tayori/>)が開設され、震災を忘れないための取り組みとして、被災地や復興支援活動の様子を写真で紹介しています。読者の皆さまが撮った復興支援活動の様子などを、是非、投稿し、全国で共有してください。

本号外部取材スタッフ:秋山健一郎、荒川和巳、野口武、山田省蔵